

地下街空間のアメニティ評価に関する研究

名古屋工業大学 学生員 鈴木 直司
 名古屋市計画局 ○坂本 敏彦
 名古屋工業大学 正 員 和田かおる
 名古屋工業大学 正 員 山本 幸司

1. はじめに

価値観の多様化が進み、都市の魅力や親しみに対する関心が高まり、都市整備における快適性指向が重視されてきている。経済成長を支える視点から機能性や合理性に重きをおいて整備されてきたいくつもの都市施設が、昨今アメニティという視点から再検討されるべき時期がきているとも思える。都市におけるアメニティの要素は自然や文化、エコロジーなど様々な分野に及ぶが、本研究ではとりわけアメニティ都市の構築における地下空間利用のあり方という視点から研究を進めた。

2. 都市のアメニティと地下空間利用

大都市の都心部拠点的地区における都市空間の有効・高度利用の社会的要請は今後もさらに高まっていくことが予想される。その中で地下空間の有効利用も必然的に進められることになるであろう。また地下空間の計画的な利用が進められることは、都市空間の高度利用を促進するだけでなく、地上における景観などのアメニティ創出や、地下空間特性を活かした都市機能の改善など、都市のアメニティ創出にとっても新たな可能性を持つはずである。こうした視点から、交通、供給・処理などの施設や民地の地下も含めて、地上と一体となった長期的スパンの都市空間計画を策定することが必要である。

3. 名古屋の街と地下街

都心地域において地上と地下の一体的な都市空間計画を策定する場合、既設の地下施設の再整備は、その改修に多大な費用と困難をとまなうことから特に検討を要するところである。

名古屋においても地下鉄の開通に合わせて地下街の整備がはじまり、交通、供給・処理などと合わせて総合的な地下利用が進められてきたが、総合的な地下利用計画を策定せずに進められた地下利用は、そ

の結果として様々な都市施設の混在を招いてしまった。輻輳する地下施設の中で地下街空間に対する物理的な制約も大きく、快適な都市空間創造という点では不十分さを否めない結果となっており、あるアンケートによれば地下街のイメージは暗い、狭い、苦しいなどのマイナス面が指摘されている。しかしながら、地上の商店街に比べ、地下街が商業的に成功していることから見れば、地下街には気候面をはじめとした有利な条件があることも確かである。したがって地下街のマイナス面を払拭することができれば、アメニティ都市名古屋の構築を支援する地下街の整備も可能になると考えられる。

4. アメニティの視点から見た地下街

本研究では地下街をアメニティ・ストリートとするには何が求められるのかを検討した。アメニティの要素を魅力や活力との関係から探るべく、名駅と栄の地下街の店舗従業員を対象にアンケートを実施し、その結果を数量化理論Ⅱ類で分析し、地下街の魅力や活力を左右する要因について調査した。

アンケートは34項目について行ったが、分析においてはその中の2項目を外制的基準とし、26項目を説明変量とした。さらにそれぞれの外的基準に対し、26項目の説明変量の中から偏相関係数の大きい順に10項目を抽出し、再度分析を行い、偏相関係数の大きい5項目について分析した。外的基準に対するサンプルの反応を表-1に示す。

5. 分析結果

(A) 魅力を外制的基準とした場合、表-2の結果が得られた。偏相関係数で比較すると「吹き抜けの様子」が最も寄与率が高く、次に「年齢」「緑の豊かさ」「通路幅のゆとり」「にこい」となっている。

①吹き抜けの様子

満足、やや満足層では魅力を感じ、普通と不満層では、魅力を感じないという傾向がみられる。

②年齢

60代が最も魅力を感じる傾向があり、次いで、10代、50代の順で、最も感じない傾向にあるのが40代である。

③緑の豊かさ

満足層からやや不満層までが魅力を感じるという傾向があり、不満層だけが感じない傾向にある。

④通路幅のゆとり

広いほうが若干魅力を感じる傾向にある。

⑤におい

快適なほど魅力を感じる傾向が強くなっている。においと魅力とは、連続的に相関している。

(B) 活力を外的基準にした場合、表-3の結果が得られた。偏相関係数で比較すると「湿度」が寄与率が高く、次に「年齢」、「閉鎖感」、「におい」「緑の豊かさ」となっている。

①湿度

快適なほど活力を感じる傾向が強くなっているようにみられる。湿度と活力とは、ほぼ連続的に相関している。

②年齢

60代が最も活力を感じる傾向があり、次いで、50代、30代の順で、最も感じない傾向にあるのが10代、40代である。

③閉鎖感

開放的、やや開放的と答えた層は、活力を感じる傾向にあり、普通、やや閉鎖的と答えた層は、感じない傾向にある。

④におい

快適、やや快適層は、活力を感じる傾向にあり、普通、不快層は、感じない傾向にある。

⑤緑の豊かさ

満足度が高くなるほど活力を感じる傾向が強くなっているようにみられる。緑の豊かさと活力とは、ほぼ連続的に相関している。

表-2 分析結果(外的基準:魅力)

アイテム	カテゴリー	カテゴリ-数量	偏相関係数
年齢	10代	-0.3088	0.2097
	20代	0.075	
	30代	-0.2314	
	40代	0.2613	
	50代	-0.2408	
	60代	-2.0958	
におい	快適	-0.6414	0.1874
	やや快適	-0.5576	
	普通	0.0935	
	やや不快	0.0969	
	不快	0.1986	
緑の豊かさ	満足	-0.5132	0.2003
	やや満足	-0.2993	
	普通	-0.0516	
	やや不満	-0.2758	
	不満	0.2779	
通路幅のゆとり	広い	0.3234	0.1986
	やや広い	-0.3663	
	普通	0.1371	
	やや狭い	-0.2727	
	狭い	-0.0914	
吹き抜けの様子	満足	-0.5308	0.2886
	やや満足	-1.2631	
	普通	0.1318	
	やや不満	0.0714	
外的基準	カテゴリー	カテゴリ-数量	相関比
	魅力を感じる	-2.1085	0.4381
	やや感じる	-1.2929	
	普通	0.1878	
	やや感じない	0.3444	
	魅力を感じない	0.5266	

表-3 分析結果(外的基準:活力)

アイテム	カテゴリー	カテゴリ-数量	偏相関係数
年齢	10代	0.25	0.281
	20代	0.1425	
	30代	-0.2101	
	40代	0.241	
	50代	-0.8478	
	60代	-2.1824	
湿度	快適	-2.0816	0.3342
	やや快適	-0.2637	
	普通	0.2385	
	やや不快	0.2451	
	不快	0.0333	
におい	快適	-0.8251	0.2798
	やや快適	-0.809	
	普通	0.2612	
	やや不快	-0.089	
	不快	0.223	
緑の豊かさ	満足	-2.0803	0.2752
	やや満足	-0.5988	
	普通	0.0436	
	やや不満	0.1442	
	不満	0.1083	
閉鎖感	開放的である	-0.8395	0.2799
	やや開放的	-1.1018	
	普通	0.1514	
	やや閉鎖的	0.1964	
	閉鎖的	-0.0621	
外的基準	カテゴリー	カテゴリ-数量	相関比
	活力を感じる	-2.4948	0.4584
	やや感じる	-0.601	
	普通	0.1897	
	やや感じない	0.1976	
	活力を感じない	0.5894	

6. まとめ

分析結果から見て、空気の快適度、緑の豊かさ、吹き抜けの確保など閉鎖感の解消がアメニティ評価に強く影響を与え、これらの改善が特に求められるところである。なお、地下街通行者に対するアンケート結果は、講演時に報告する。

表-1 外的基準とサンプル反応

	魅力的	やや魅力的	普通	やや魅力的でない	魅力的でない
魅力	8	45	153	55	52
活力	18	49	151	42	55